

令和元年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市民ネット・むろらん
議員名	水江一弘・児玉智明・佐藤潤・小田中稔・高橋直美・長岡充洋・滝口紘子
調査実施年月日	2019年7月31日
調査先 自治体名等	岡山県 玉野市
調査項目	瀬戸内国際芸術祭について
調査目的	玉野市への効果影響等についての調査
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口：60,079人(H30.4.1現在) 行政面積：103.58 km²</p> <p>2 視察内容 岡山県玉野市に於いて瀬戸内国際芸術祭について、現地視察を含む行政調査を実施した。</p> <p>瀬戸内国際芸術祭は、瀬戸内海の12の島と2つの港周辺で行われる現代アートの祭典として、2010年から3年に一度のトリエンナーレ方式で開催される日本を代表するアートフェスティバルとして知られているが、現代アートの力を借りた瀬戸内の地域再生の取り組みでもある。</p> <p>コンセプトを「海の復権」とし、「観光」が島の人の「感幸」であること、「あるものを活かし、新しい価値を生み出す」との考えのもと、アーティストと地域住民、国内外から集うボランティアとの協働によって生み出される作品が、世界からの来訪者との交流を瀬戸内の小さな離島に生み出している。</p> <p>「あるものを活かし、無いものをつくる」とは、以下6つの項目に於いて、新たな価値を生み出す取り組みとされている。</p> <p>①「アート・建築」。世界レベルの作品を通して地域の価値を発見する。瀬戸内の美しさを見つける。②「民俗」。地域で育まれた固有の文化を生かす。素朴な日本文化の良さを見つける。③「生活」。島で営まれてきた生活に焦点を当て、地域再生の機会を探る。④「交流」。国、世代、ジャンルを超えた人々と協働する。地方にいながら世界の人と縁ができる。⑤「世界の叡智」。世界の知恵が集まる場所。知的好奇心が触発される。⑥「未来」。次世代の子ども達に活動を繋ぐ。子どもや孫と一緒に参加できる。</p> <p>瀬戸内国際芸術祭が、既存の地域資源を活かしながら新たな価値を生み、地域再生へと繋げる取り組みであることが分かる。</p> <p>玉野市宇野港会場は、常設の作品も含め、港を中心に作品が展示されている。2010年の開催以降、各種メディアで紹介され、著名なアーティストの作品を目的に、来訪者が増加。玉野市が新たに観光地として認識されることとなった。</p> <p>経済効果としては、JR利用者その他、フェリー利用者が増加。一時激減した島と宇野港を結ぶフェリーが増便され、宿泊者数、飲食店来客数は、最大4割増の効果を出している。また、2012年以降、新規創業店舗は約40店舗に上り、中には多数の移住者が新規開業のため玉野市へと移り住んでいる。今後も民泊施設や飲食店の開業が多数計画されており、宇野港周辺の経済への波及効果が認められている。</p> <p>地域活性化への影響としては、瀬戸内国際芸術祭に合わせて開催されるイベント等への地域住民の参加や、地元食材を活かした新たな食のプロジェクトな</p>

<p>感想（まとめ） 本市へ生かせること等</p>	<p>ど、様々な企画が開発され、開催地としての街の賑わい効果が表れている。</p> <p>岡山県の観光地としては、倉敷市が有名だが、この瀬戸内国際芸術祭を契機に玉野市が、芸術のまち、観光の地として認識され、倉敷市とセットでツアーが企画されるなど、岡山県にとっても新たな観光客層の獲得へと繋がっている。</p> <p>玉野市としても、観光客増や新規創業者増など経済への波及効果と共に、若い世代の移住定住に依る街の活性化にも繋がっており、瀬戸内国際芸術祭のコンセプトである地域再生が、玉野市に於いて具現化されていることが分かる。</p> <p>本市でも、芸術祭の開催を望む民間団体が、瀬戸内国際芸術祭のプロデューサーや、アーティストとの情報交流を深めており、今後の動きに期待したい。また、具体化に当たっては市民や行政が、どの様に連携すべきかを引き続き調査研究して参りたい。</p>
-------------------------------	--